

**立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金  
企画研究プロジェクトⅡ（教員・学生参加型） 2016年度研究成果報告書**

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏名
	スポーツウエルネス学科 3年	昆 駿 印
指導教員	所属・職名	氏名
	コミュニティ福祉学部	濁川孝志 印
研究課題	今こそ大震災の教訓から学ぶ 一東日本大震災を風化させないために一	
研究年度	2016年度	
プロジェクト 分担者	運営 スポーツウエルネス学科 4年 昆駿 広告依頼 スポーツウエルネス学科 4年 木村涼太 ポスター制作 スポーツウエルネス学科 4年 揺本小夏 比嘉栄透	

**プロジェクトの内容及び成果の概要**

今回は「大震災からの復興」というテーマの下、地球交響曲第8番の上映会とゲストスピーカー2名、濁川教授によるトークセッションを行った。

東日本大震災から5年が経過したが、現地を見ると当時の傷跡が色濃く残る地域が多く存在している。そこで、いつまでも多くの方に忘れられない為にもこのプロジェクトを実行しようと考えた。

上映会を開催に向けての準備に至っては学生が主体となって、ポスターを用いた宣伝や当日の運営などを行った。

当日は、100名ほどのお客様に来場して頂いた。さらに、「これから被災地が、真の復興をはかるにはどのような取り組みが必要なのか。」「地球交響曲シリーズを今後若い世代に受け継いでいく為にはどのような取り組みを行っていけば良いのか。」というテーマにて、来場して頂いたお客様にアンケートを記入してもらった。

アンケートの結果から、入場者して頂いた方は女性の方が多く見られ、さらに40・50年代の方が最も多く来場されていた。私たちのような若い年代の方は最も少ない結果となった。次に、地球交響曲シリーズにおいて、他に見たことがある作品と好きな作品についてアンケートを取ったが、1・2・8番が最も多く見られた作品となっていた。好きな作品という項目は見たことがある作品と似たような結果となった。恐らく、見たことがある作品が好きな作品とされている傾向にあると感じた。上映会を知ったきっかけについて聞いてみかか、「ネット」という答えが最も多く、次いで「友人知人からの紹介」という項目が多い回答となった。現代のネット社会という実態を把握するとともに、チラシの宣伝効果はあまり期待することができないことを知った。最後に「地球交響曲作品を若い世代に残していくには」という設問に対しては、上映会を開催するという意見が最も多い結果となった。

「東日本大震災からの真の復興を遂げるためには何が必要か」という設問には、ボランティアや復興作業を行うなど行動を行うという意見が多くみられた。

アンケートの結果から様々な考察をすることができた。私たちが考える課題は「若い人たちの関心が少ない」ということである。その課題を解決するためには、若い世代の人を巻き込み、地球交響曲の存在を知ってもらう必要がある。そのため、学校と協力して、授業や講義に取り入れてもらったり、学生が参加しそうなイベントと一緒に上映会を開催したりするなどの取り組みが必要であると考えた。

今後、日本の未来を守っていく為には、若い人の力が必要である。国民全体が協力して地球交響曲のような作品を受け継いでいくことが大切であると感じた。私たち自身もボランティア復興作業や若者に向けた上映会の実施等を行い、今回のプロジェクトの経験を生かしていきたい。